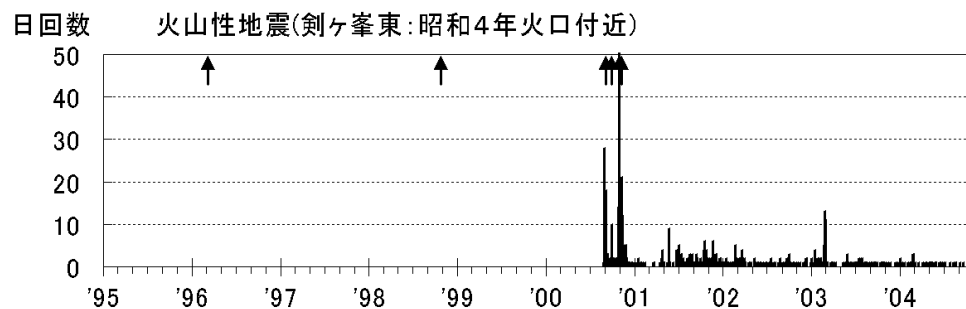
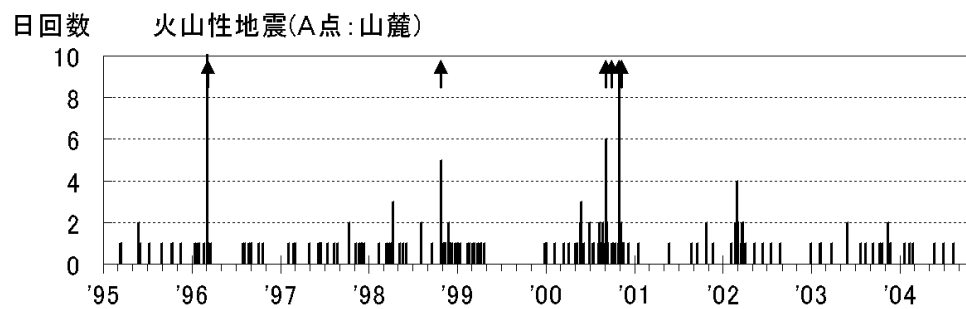
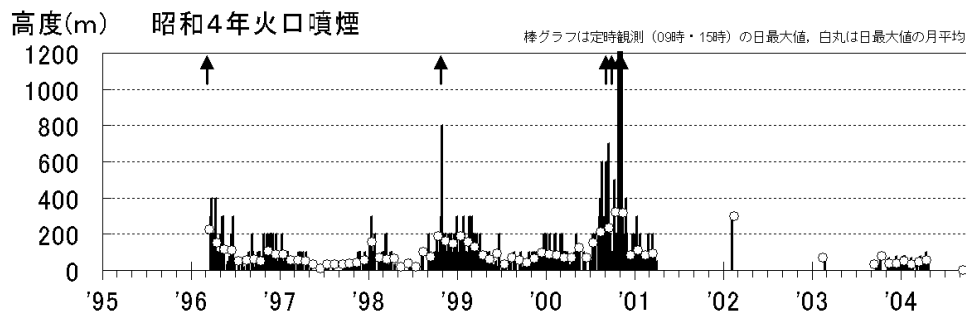
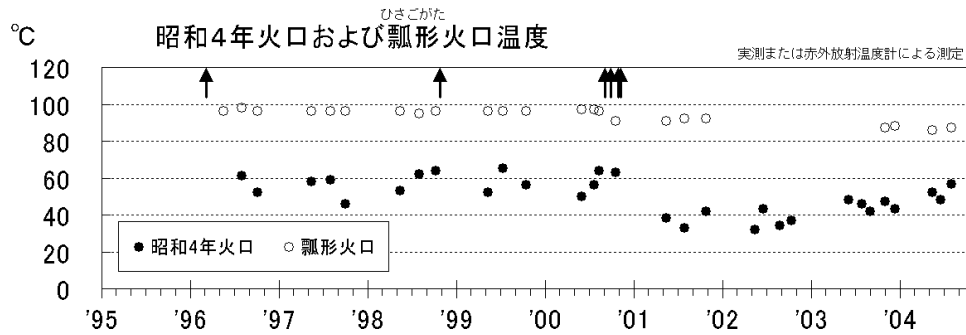


北海道駒ヶ岳

1 概況

火山活動はおおむね静穏に経過しています。しかし、山体はわずかな膨張傾向が続いており、昭和4年火口では昨年9月以降弱い噴気が見られています。

1996年から2000年までの間に6回の小噴火が発生しており、噴火発生の数年前に小噴火を繰り返した1929年大噴火や1942年中噴火の前の状況と類似しています。



最近の火山活動経過図(1995年1月1日~2004年8月31日) 印は噴火

2 噴煙の状況

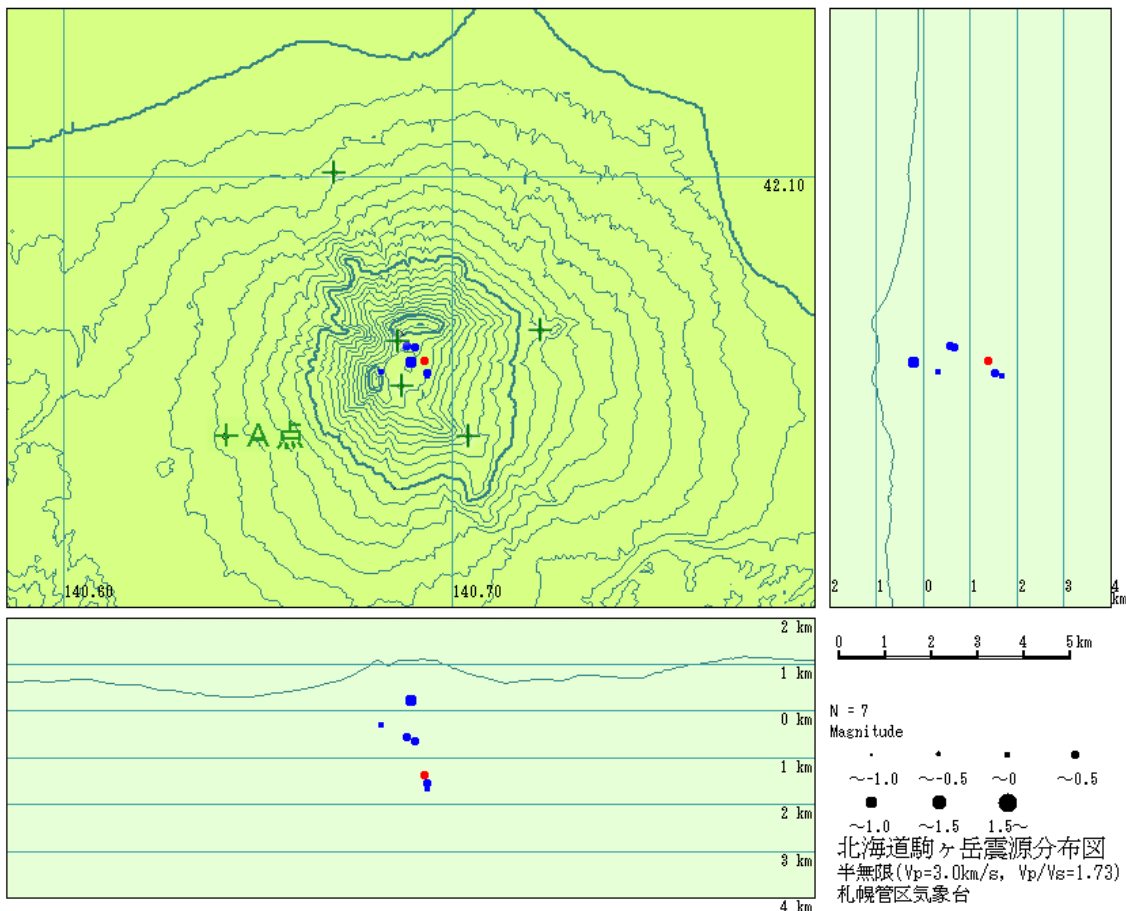
2003年9月以降、昭和4年火口および96年南火口列からの弱い噴気がしばしば観測されていますが、今期間も一時的に観測される日がありました。

3 地震の発生状況

今期間、A点で観測された火山性地震はなく、山頂観測点で観測されるごく微小な地震も少ない状況でした。2001年以降、地震活動は静穏に経過しています。火山性微動は2001年1月以降観測されていません。

地震・微動の月回数 (A点)

2003~2004年	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
地震回数	2	4	0	1	2	0	0	1	1	0	1	0
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



北海道駒ヶ岳の震源分布図 (丸印：震源 +印：地震観測点)

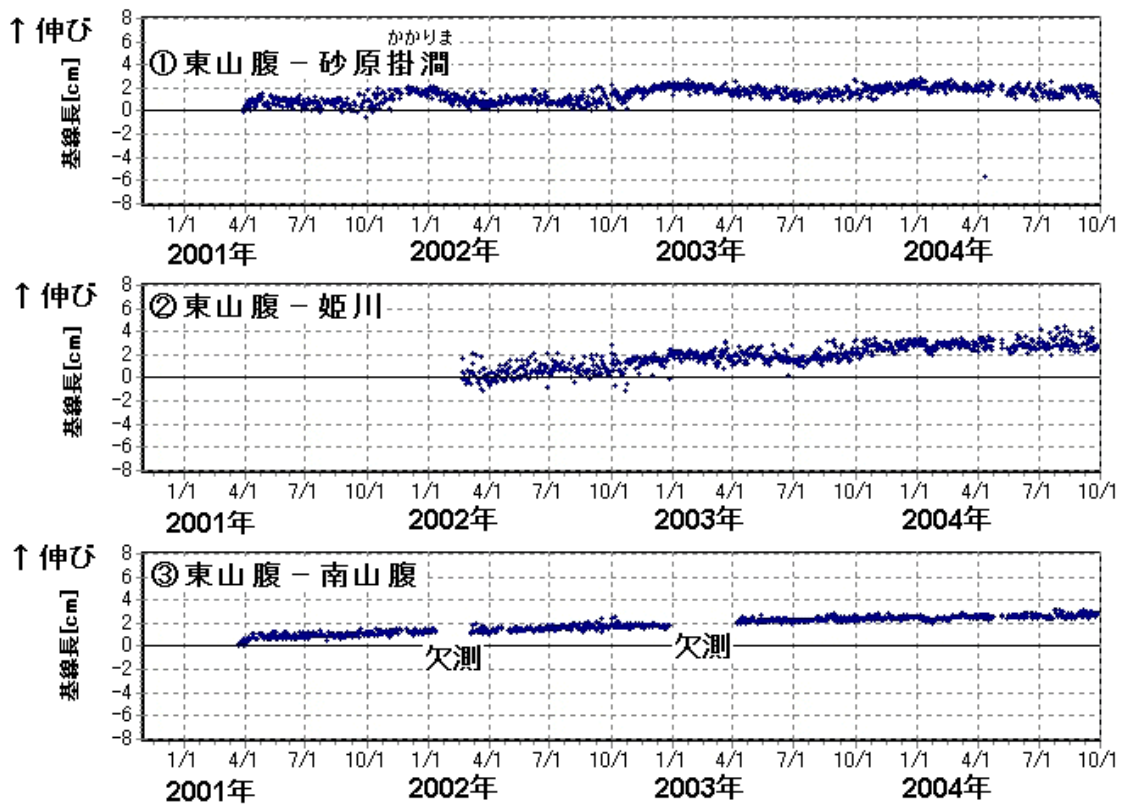
赤丸は今期間(2004年9月1日~30日)に求めた震源を示しています。

青丸は前期間までの11ヶ月間(2003年10月1日~2004年8月31日)に求めた震源を示しています。

過去の震源分布は大きく分けて山頂火口原直下の海拔付近と海拔下1~2kmに集中しています。このほか、山麓のやや深いところ(5~10km)を震源とする地震も時折発生していますが、十分な精度が得られないためこの図には表示していません。

4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、季節変動の影響も見られますが、わずかな山体膨張を示す基線長の伸びの傾向が引き続き認められています。



基線長変化(2001年3月23日~2004年9月30日)

